〈別紙〉

第１回 国際交通フォーラム
（International Transport Forum）の概要

１．　目的、位置づけ

・ ITF は、OECD 加盟国を中心とした５３カ国の交通大臣及び著名な有識者・経済人が参加して、交通政策に関するハイレベルかつ自由な意見交換を行うべく、ECMT（欧州運輸大臣会議）から昨年改組

・ 今回は「交通とエネルギー」と題して環境問題を取り扱うことから、本年１０月に国土交通省が主催する「交通分野における環境とエネルギーに関する大臣会合」のセクター別アプローチの１つの先導的な役割を果たすものとして重要な会合（ITF は交通分野における環境対策の方向性を示唆、本大臣会合はアジア諸国を含め途上国の対応も念頭においてより具体的な施策について議論予定）

２．　出席者

・ 独・仏・伊・露・英など欧州諸国、及び加・米等の交通大臣、国際機関、民間企業及び大学等から約９００人が出席

・ 我が国からは柴田国土交通審議官が出席

３．　主な講演者、パネリスト

・ メルケル　独首相

・ パチャウリ　IPCC 議長

・ デ・ブア　UNFCCC 事務局長

・ エンダース　エアバス社社長

・ メードルン　ドイツ鉄道総裁　ほか

４．　結果概要

・ 交通分野が持つ経済や移動を支援する役割の維持と CO２排出の削減との適切なバランスを見つけることが重要な課題として強調された

・ より低炭素な交通システムのためには、企業や国民の行動の変化を促すことが交通政策の役割であり、そのためにはインセンティブを与えるべきであるという議論がなされた

・ また、交通分野における排出権取引導入、特に国際航空分野への導入については、推進する立場の EU 内部にも、加盟国間でかなりの意見の相違が見られた